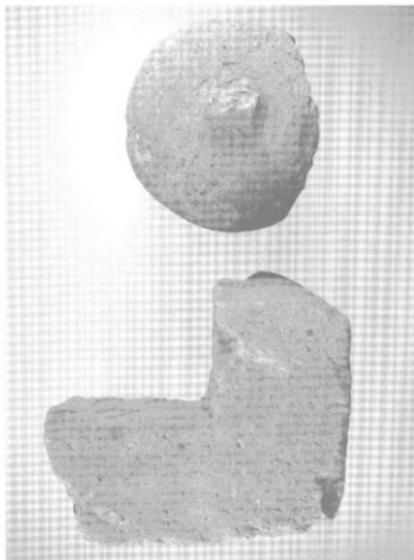
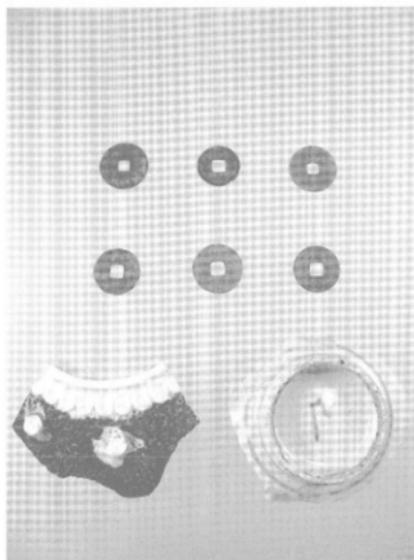




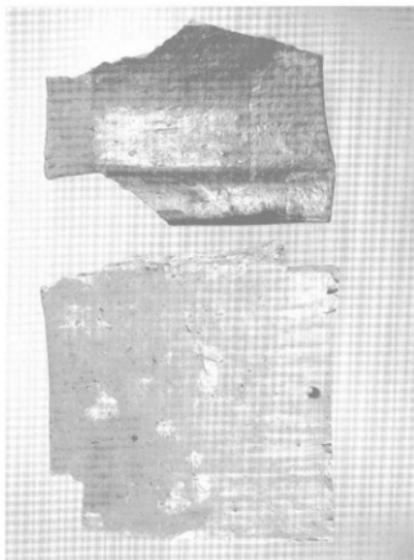
1. 出土遺物 (土製品・瓦類)



3. 出土遺物 (石製品)



2. 出土遺物 (陶磁器類・古銭)



4. 出土遺物 (瓦類)

第2節 山陰道（野坂峠越・徳城峠越）

第1項 はじめに

本発掘調査は、国指定史跡である山陰道 蒲生峠越の追加指定を受けるために、本町に現存する野坂峠と徳城峠の現状を把握するため発掘調査を実施した。調査範囲は野坂峠が全長約1.2 km、徳城峠が全長約3.5 kmである。

第2項 調査の場所

津和野町中座（野坂峠）・柳村・富田（徳城往還）地内

第3項 調査対象の文化財及び調査面積

山陰道野坂峠越 48㎡ 町指定文化財徳城往還 16㎡

第4項 調査内容

1. 調査方法

野坂・徳城峠両地区において、発掘作業に先立って調査対象範囲の草木を伐採し、遺構の現状の把握をおこなった。その結果、野坂峠地区については、当時の街道（山陰道）を構成する重要な遺構が存在することが判明した。

その後、人力による発掘作業を進めた。発掘作業はトレンチ調査を主として、遺構の保存状況の良好な範囲については部分的に面的な発掘調査をおこない、土層の堆積状況および遺構・遺物の広がりを確認した。

出土遺物は、発掘小区画で層位別に取り上げた。発掘後には、写真撮影・図面実測・遺構測量などをおこなった。

2. 調査結果

野坂峠

草木の伐採をした結果、道幅3 m前後の街道跡が良好な状態で残っていた。そして、8ヶ所のトレンチを設定して発掘調査をした。

まずトレンチ1では、石製の暗渠が検出された。谷の両側に石垣を組んでその上に幅30～40cm、長さ約2 mの石蓋を8枚並べて載せ、その上に土を盛って道路面を作っている。次のトレンチ2は、山側から谷川に向けて溝（横断溝）が検出された。トレンチ3もトレンチ2と同じような溝（横断溝）が検出された。また谷川には石垣が発見され、おそらく関所（番所）跡ではないかと思われる。

トレンチ4は、勾配約19%の坂道で道の中央部分において石畳が敷いてあるのが確認された。約20cmの石を使用している。

トレンチ5・6・7については、お互いに近い場所に設定した。この3つのトレンチは街道がどの方向に続いているのかを目的として調査した。その結果、従来考えられていた道より東にずれることが確認された。さらにこの区間の前後は石畳が敷かれていることも確認することができた。

これらの石畳は基本的には街道の中心部分の1.5m幅のみ敷かれている。さらに南側に設置したトレンチ8においても同様な石畳が確認できた。トレンチ8より100mほど南側で、町道と合流する。この道は明治19年に国道9号線として整備され、約200mで山口県との境に達する。この時に整備された石垣が当時のまま現在も残っている。

徳城往還

トレンチを4ヶ所設けて試掘確認調査を実施した。まず、トレンチ1は、調査区の北側に位置する。約4mの道幅を確認することができた。調査地点は地質的に山が頑丈なため、山を道幅だけL字状に削り、道全体を平坦にするため僅か10cmほど盛土して、山側には溝を作っている。

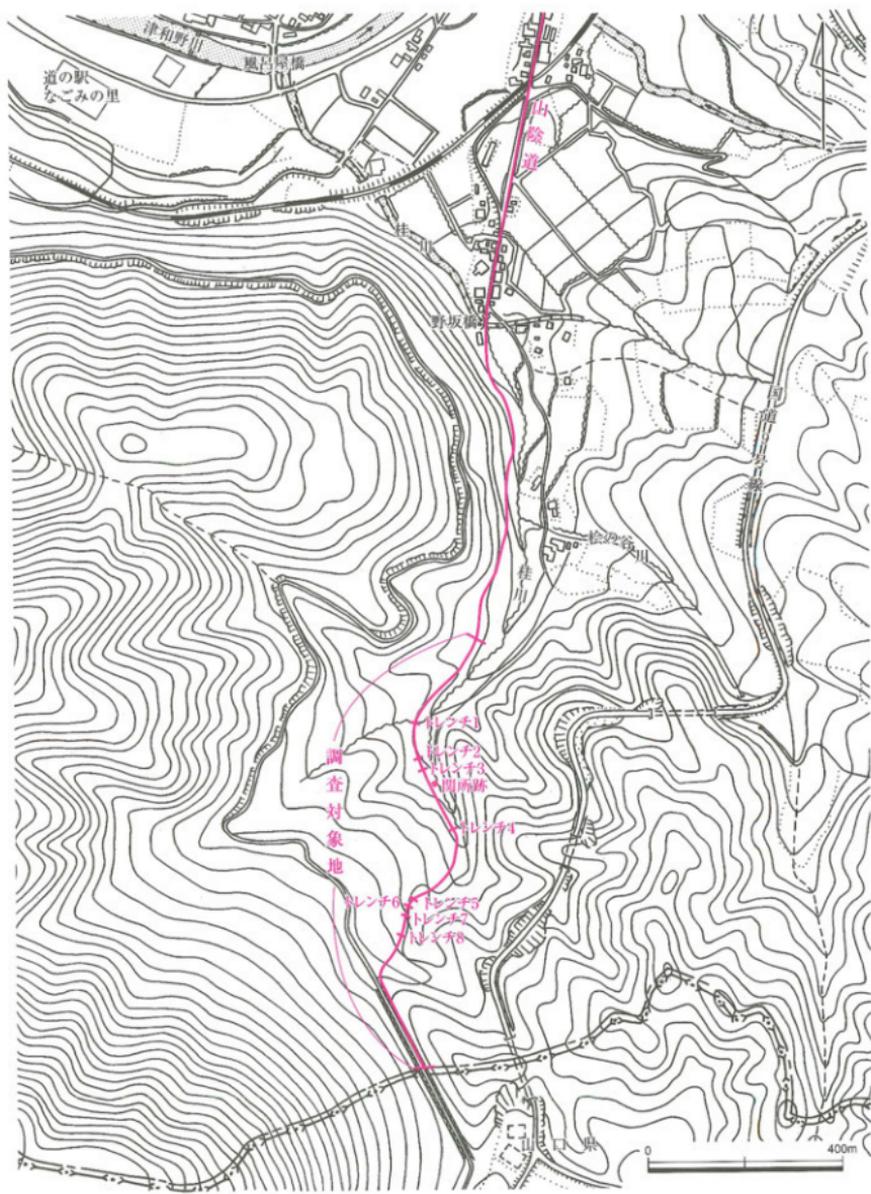
トレンチ4は、勾配10%の穏やかな坂道である。試掘調査の結果、他と同様にL字状に削り、道を整備している。ただし、この地点が岩盤であるため2.8mだけ削り、谷側に石垣を築いて1.2mほど盛土して、4mの道幅に整備している。石垣の高さは約80cmを測り、岩盤を掘削した時に石を利用していていると思われる。

全体として野坂峠越と同様に約3～4mの道幅を確認することができた。新しい時代において、整備をした形跡もなく、当時のまま現在までに至っていると考えられた。

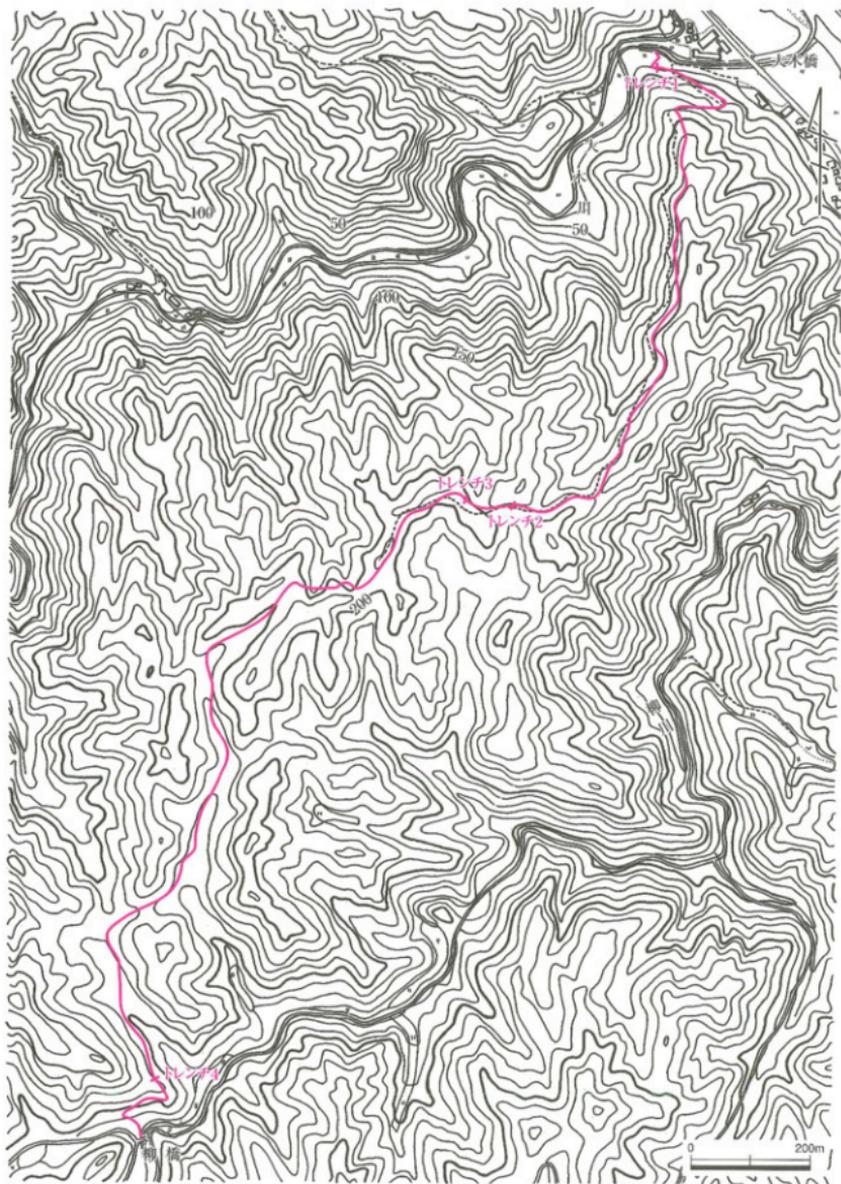
3. 出土遺物

陶磁器類

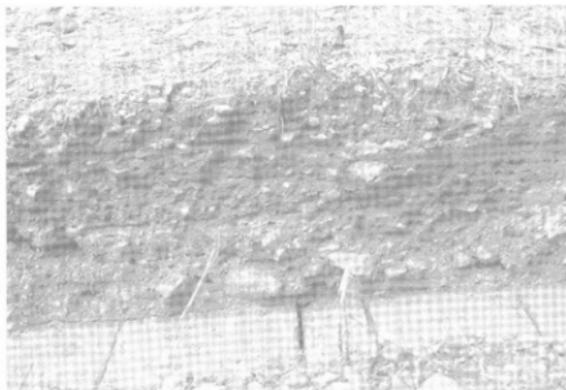
なお、詳細は「山陰道（野坂峠越・徳城峠越）」（島根県津和野町教育委員会 平成20年（2008）発行）に掲載されている。



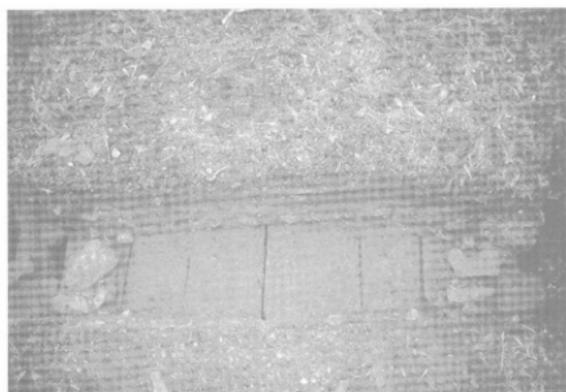
第22図 山陰道調査配置図（野坂峠越）



第23圖 山陰道調査配置圖（徳城峠越）



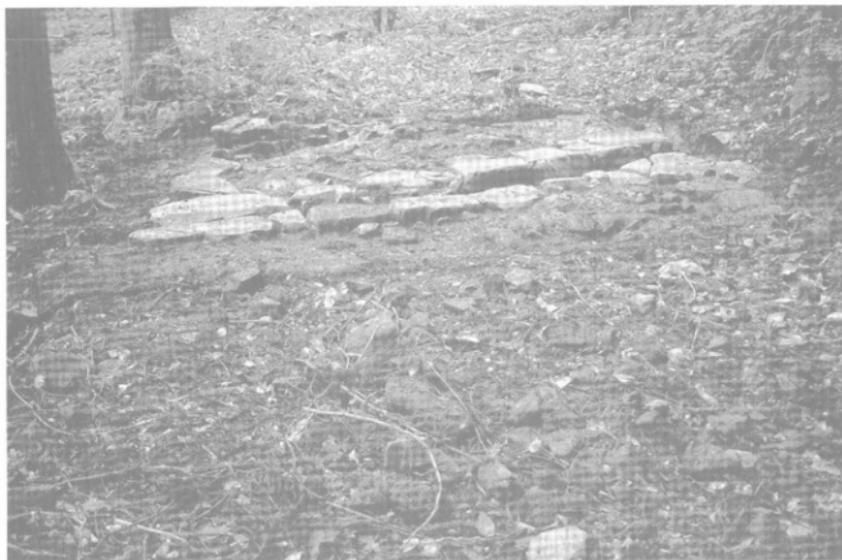
1. トレンチ1 調査前



2. トレンチ1 暗渠遺構
完掘状況 (上から)



3. トレンチ1 暗渠遺構
完掘状況 (横から)



1. トレンチ2 横断溝 完掘状況



2. トレンチ2 横断溝 完掘状況 (上から)



1. 関所跡



2. 関所跡



1. トレンチ4 調査前



2. トレンチ4 完掘状況